第 7 回　九頭竜川自然再生計画検討会

議事骨子

日　時　：　平成 20 年 12 月 17 日（水）　14:00～16:00
場　所　：　福井市地域交流プラザ　研修室 607

１．議事

事務局より，支川水路連続性再生事業における整備目標の設定，段階的整備計画，モニタリング計画の説明及び地域連携方策についての説明が行われました。

九頭竜川の各再生事業における整備目標の設定，段階的整備計画，モニタリング計画，及び地域連携方策について，各構成員から以下のような意見がありました。

○支川・水路連続性再生に関するご意見

・ドンコは純淡水魚であるが，川を上下に行き来するため，通し回遊魚だけを指標とすればよいというわけではない。また，フナやコイ等は産卵期になると本川から支川に入り，場合によっては田んぼへ入ってくるため，その移動経路の確保が重要である。
・現在では，田んぼと用水路の落差が非常にきつくなっているが，この自然再生計画では田んぼのことまでは考えにくいので，少なくとも小川と本川との行き来はできるような配慮が必要である。
・支川の連続性の指標はヨシノボリとし，環境面については確認魚種全体を見て評価する必要がある。
・芳野川では，渇水期にはほとんど水がないような状況が考えられるため，並行して流れている春近用水からの取水について要望を出している状況である。
・狐川では地域の方々と水辺の楽校なども取り入れて活動をやってきているため，支川に魚が遡上できる環境をつくることで新たな取り組みができるのではないか。
・魚道はハーフコーン型が必ずしもいいとは限らないので，その場に対して最も適した魚道を使う必要がある。
・ハーフコーン型魚道の設置に関しては，魚道の降り口に土砂やゴミが堆積する可能性がある。また，遡上力の弱い魚種はハーフコーンの径が大きいと遡上できないということに配慮する必要がある。
・鳴鹿大堰から九頭竜ダムまでの間に，魚の遡上の障害となるような横断構造物が 16 箇所存在し，その中でも下荒井堰，富田堰ではサケ，マス，アユの遡上が困難と考えられる。
・鳴鹿大堰だけでなく，その上流の床固め工や堰も魚がのぼりやすくする必要があるため，国や県及び市で統合的に進めていかなければ，川は甦らないのではないか。
・鳴鹿大堰については改めて管理も含めて魚の遡上について調査検討する必要があるのではないか。

○地域連携方策に関するご意見

・森田地区では桜並木の草取りや缶拾い等を行っているので，このような活動を周辺地区へ広げていきたい。
・芳野川に生き物が復活して，地域に小学校もあるのならば，そこで子供たちの環境学習ができるのではないか。
・福井県の川守活動は，身近な河川でのゴミ拾いや草刈りなどへの参加という形で全県全ての市町で参加していただいている。また，花壇への植栽等の活動へも協力していきたいと考えている。
・九頭竜川流域ごみワークショップや水交流サミットを通じて，まず行政機関の連携を進めていかなければならないということと，併せてそのようなところから地域と繋がっていくようなベースをつくっていくことが必要であると考えている。

○その他ご意見

・森田地区周辺の樹林化した砂礫河原を昔の姿に戻して欲しい。

２．事務連絡等

事務局より，今後の検討会の開催予定及び討議内容についてお知らせがありました。